

# 研究者すごろく

**大学院  
受験生**  
序章 | 研究への道  
**スタート**

**進学決意**  
第1章 | 決める  
**1.1**

**入試準備**  
第1章 | 決める  
**1.2~1.3**

**修士課程  
院生**  
**大学院合格!**

**文献収集**  
第3章 | 読む  
**3.1~3.3**

**研究テーマ  
設定**  
第2章 | 考える  
**2.1~2.4**

**調査設計**  
第4章 | 調べる  
**4.1~4.3**

「研究者の一生」を一望する見取り図です。  
自分がどこに向かっていて、今、どのコマにいるのか、  
このすごろくで確認しながら、本書を読み進めてください。  
1.1などの数字は目次と対応しています。

**ゼミ発表**  
第5章 | 話す  
**5.1**

**学会発表**  
第5章 | 話す  
**5.2**

**博士課程  
院生**  
**博士進学!**

**修士論文  
執筆**  
第6章 | 書く  
**6.1~6.2**

**調査実施**  
第4章 | 調べる  
**4.4~4.5**

**研究指導**  
第7章 | つながる  
**7.1**

**研究仲間  
作り**  
第7章 | つながる  
**7.2**

**論文投稿**  
第6章 | 書く  
**6.3~6.5**

**博士論文  
執筆**  
第6章 | 書く  
**6.6**

**任期付教員  
非常勤教員**  
**博士号取得!**

**研究生生活**  
第8章 | 生きる  
**8.1~8.2**

**デジタル  
発信**  
第7章 | つながる  
**7.4**

**任期無  
常勤教員**  
**テニユア取得!**

**社会連携**  
第7章 | つながる  
**7.3**

**キャリア**  
第8章 | 生きる  
**8.3**

**名誉教授  
ご臨終**  
**ゴール**

# 『文系研究者になる 「研究する人生」を歩むためのガイドブック』

## <目 次>

### 序章 研究への道

- 0.1 研究は恋
- 0.2 研究者の一生
- 0.3 本書の対象者

### 第1章 決める（決断）

#### 1.1 受験生の決断

- 1.1.1 分野によって異なる大学院の進学意識
- 1.1.2 文系大学院への進学の動機

#### 1.2 大学院進学への準備

- 1.2.1 大学院選択の方法
- 1.2.2 修士課程入試の準備
- 1.2.3 修士課程入試の面接
- 1.2.4 博士課程入試の準備

#### 1.3 大学院進学後の考え方

- 1.3.1 修士課程合格後の準備
- 1.3.2 博士課程合格後の準備
- 1.3.3 スケジュールの管理
- 1.3.4 大学院生活に必要な作業

### 第2章 考える（思考）

#### 2.1 研究の基本

- 2.1.1 研究とは何か
- 2.1.2 研究に向いている人
- 2.1.3 研究に向いていない人
- 2.1.4 研究者になるリスク

#### 2.2 研究テーマの探索

- 2.2.1 研究テーマとの出会い
- 2.2.2 経験と研究テーマ探し
- 2.2.3 知識と研究テーマ探し
- 2.2.4 データと研究テーマ探し
- 2.2.5 よい研究テーマ
- 2.2.6 研究テーマと指導教員

#### 2.3 研究課題の設定

- 2.3.1 問いと答え
- 2.3.2 問いを立てる
- 2.3.3 問いを思いつく
- 2.3.4 問いを変える
- 2.3.5 問いを分割する

#### 2.4 考えるコツ

- 2.4.1 論拠とデータを示す
- 2.4.2 疑いを持つ
- 2.4.3 新たな考えを生み出す
- 2.4.4 思考の材料を整える

## **第3章 読む（文献）**

### **3.1 文献を読む**

- 3.1.1 勉強のために文献を読む
- 3.1.2 研究のために文献を読む

### **3.2 文献データベースを調べる**

- 3.2.1 学術検索サイトで検索する
- 3.2.2 検索で漏れた文献を補う

### **3.3 引用の作法**

- 3.3.1 引用の意義
- 3.3.2 研究史に位置づける
- 3.3.3 引用のマナー
- 3.3.4 引用のルール
- 3.3.5 剽窃を防ぐ

## **第4章 調べる（調査）**

### **4.1 調査とは何か**

- 4.1.1 調査と分析
- 4.1.2 調査の方法
- 4.1.3 量的調査と質的調査

### **4.2 質的調査**

- 4.2.1 質的調査とは何か
- 4.2.2 質問の良し悪し
- 4.2.3 インタビューの種類
- 4.2.4 研究倫理の問題

### **4.3 量的調査**

- 4.3.1 量的調査とは何か
- 4.3.2 統計は必要か
- 4.3.3 サンプルング手法
- 4.3.4 統計の種類
- 4.3.5 統計的手法選択のコツ

### **4.4 調査の実際**

- 4.4.1 パイロット調査とリハーサル
- 4.4.2 パイロット調査をする
- 4.4.3 リハーサルをする
- 4.4.4 フェイスシートを作成する
- 4.4.5 失敗したときの保険をかける

### **4.5 既存のデータの収集**

- 4.5.1 デジタル・アーカイブのサイト
- 4.5.2 目指すデータにアクセスする方法

## **第5章 話す（発表）**

### **5.1 ゼミ発表**

- 5.1.1 ゼミの目的
- 5.1.2 発表者のゼミ発表準備の効用
- 5.1.3 発表者のゼミ発表自体の効用
- 5.1.4 参加者のゼミ参加の効用
- 5.1.5 新入生のゼミでの心得
- 5.1.6 上級生や指導教員の心得
- 5.1.7 ゼミ運営の方法
- 5.1.8 ゼミの議論の質
- 5.1.9 コメントを増やす
- 5.1.10 コメントの質を高める
- 5.1.11 集中力を高める
- 5.1.12 ゼミ運営法の最適解
- 5.1.13 もらったコメントの取捨選択

- 5.1.14 もらったコメントの優先順位
- 5.1.15 発表資料の作り方（研究生・新入生）
- 5.1.16 発表資料の作り方（修士課程）
- 5.1.17 発表資料の作り方（博士課程）
- 5.2 学会発表
  - 5.2.1 口頭発表
  - 5.2.2 ポスター発表
  - 5.2.3 講演
- 5.3 面接
  - 5.3.1 修士課程の修了面接
  - 5.3.2 博士課程の修了面接
  - 5.3.3 就職の面接

## **第6章 書く（執筆）**

### **6.1 修士論文の執筆**

- 6.1.1 修士論文の執筆スケジュール
- 6.1.2 イメージ期
- 6.1.3 試行錯誤期
- 6.1.4 方針検討期
- 6.1.5 方針確定期
- 6.1.6 調査実施期
- 6.1.7 調査整理期
- 6.1.8 執筆着手期
- 6.1.9 本格執筆期
- 6.1.10 論文提出期
- 6.1.11 後片づけ期

### **6.2 学術論文の構成別執筆法**

- 6.2.1 学術論文の基本的構成
- 6.2.2 「はじめに」
- 6.2.3 「先行研究」
- 6.2.4 「資料と方法」
- 6.2.5 「分析の結果」
- 6.2.6 「結果の考察」
- 6.2.7 「まとめ」

### **6.3 学術雑誌への投稿**

- 6.3.1 投稿の必要性
- 6.3.2 博士院生の投稿戦略
- 6.3.3 投稿先の選び方

### **6.4 投稿論文のチェック項目**

- 6.4.1 チェック項目一覧
- 6.4.2 タイトル
- 6.4.3 要旨
- 6.4.4 キーワード
- 6.4.5 匿名性
- 6.4.6 先行研究
- 6.4.7 注の扱い
- 6.4.8 資料と方法
- 6.4.9 結果・考察
- 6.4.10 まとめ
- 6.4.11 日本語表現
- 6.4.12 形式の統一

### **6.5 査読者とのやりとり**

- 6.5.1 査読のしくみ
- 6.5.2 不採用の理由
- 6.5.3 修正再査読コメントへの対応

6.5.4 査読者の心理

## 6.6 博士論文の執筆

6.6.1 修士論文と博士論文の違い

6.6.2 博士論文提出までの流れ

6.6.3 博士論文の構想と構成

6.6.4 博士論文の審査

6.6.5 博士論文の公開

## 第7章 つながる（関係）

### 7.1 学内でつながる

7.1.1 指導教員のタイプ

7.1.2 囲い込み型の指導教員との付き合い方

7.1.3 放牧型の指導教員との付き合い方

7.1.4 修士1年目の人間関係

7.1.5 修士2年目の人間関係

7.1.6 博士課程の人間関係

7.1.7 先輩との付き合い方

7.1.8 後輩との付き合い方

### 7.2 学会でつながる

7.2.1 学会とは何か

7.2.2 学会への参加

7.2.3 学会の役職

7.2.4 研究会でつながる

### 7.3 社会とつながる

7.3.1 社会との連携

7.3.2 産業界とつながる

7.3.3 官公庁とつながる

7.3.4 マスメディアとつながる

7.3.5 市民とつながる

7.3.6 世界とつながる

### 7.4 デジタルでつながる

7.4.1 オープンサイエンスの時代

7.4.2 研究者の自己発信

7.4.3 機関による研究成果の発信

7.4.4 研究活動の効果的発信

7.4.5 研究コンテンツの発信

7.4.6 研究コンテンツの利活用

## 第8章 生きる（生活）

### 8.1 研究の中断

8.1.1 研究を中断するとき

8.1.2 結婚と研究の中断

8.1.3 出産・子育てと研究の中断

8.1.4 親の介護と研究の中断

8.1.5 身体の不調と研究の中断

8.1.6 精神の不調と研究の中断

8.1.7 ハラスメントを受けたとき

8.1.8 逆ハラスメントを受けたとき

8.1.9 経済問題と研究の中断

### 8.2 経済的な問題とキャリア

8.2.1 修士課程の経済生活

8.2.2 博士課程の経済生活

8.2.3 博士修了後の経済生活

8.2.4 専任教員になる準備

### 8.3 専任研究者として生きる

- 8.3.1 専任研究者の学内業務
- 8.3.2 専任研究者の学外業務
- 8.3.3 専任研究者の研究力
- 8.3.4 科研費を取得する
- 8.3.5 研究チームを組織する
- 8.3.6 研究会を主催する
- 8.3.7 シンポジウムを開催する
- 8.3.8 書籍を出版する
- 8.3.9 後進を育てる
- 8.3.10 啓蒙活動に励む
- 8.3.11 研究者の使命
- 8.3.12 人文学の未来のために

参考文献

おわりに

索引